

機織彙編

三

太政官文庫			
		一	和
		二	書
		六	
		九	
		九	
五	四	八	七
冊	架	函	號

內閣文庫			
		一	和
		二	書
		六	
		九	
		七	
一	三	函	一
四	架	冊	五
函	架	冊	號

內閣文庫		
番號	和 11697	
冊數	5 (3)	
函號	183	629



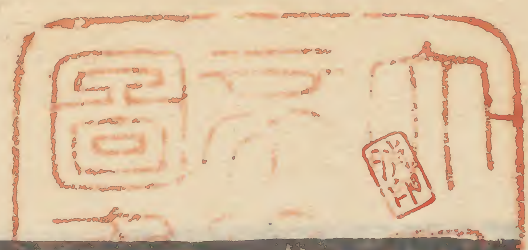
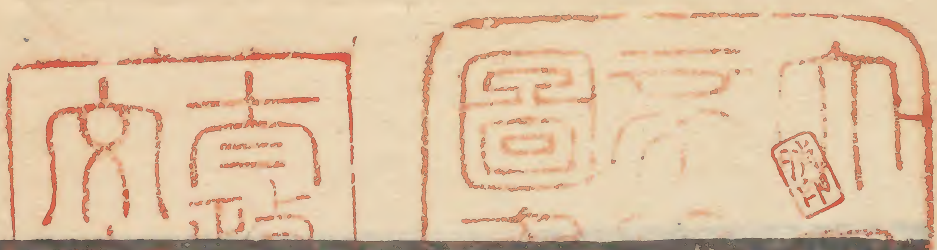
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





機織彙編卷之三

機口傳

夫機と織る手前ハ已と正し腰然板と腰を歩
 そる事ハ馬と馳るか如く我心と膝下丹田との
 と治り再日手足ハ已ガ氣と預け無心にして有
 心ガ如ク孟子曰志氣之帥也氣體之充也夫志至
 焉氣次焉故曰持其志無暴其氣此意と以て工夫
 織べし踏竹と劔術のさそくの如く其働く
 如小舞を載て舞と足の不離して心氣力一同と
 業と働すべきあり杵と投る事ハ矢と放して飛
 す如く放れ素直なれば其矢百發百中や疑が
 如く手と肉と離大事なり杵と取る子ハ居合と
 扱かふとく登系とめとらさる極と素直と扱べ

機織彙編卷之三

機織彙編卷之三

二百四十八番

三

全五本



一是居合と投と刀と鯉口と刀の身のさからび
て素直と投と同一歳ハ木太刀と歩が如く心
不直なりて又手の肉不登探と残心と位と心次
の歳歩と心と渡一一度毎と不成極とすべし
花機の手と投するハ花樓とわつて通系の曳後と
取る者と劔術と如くお手の如くゆめて遅速と不厭
おとと業とととがひ其間と見て遅速と投べし
又花樓の上りて投と引き後と取る手の肉ハ弓
と素引するが如く和らうと釣合と締りよく弦
のたるまざる極と引べしとの肉は卵と拳が如
しおろす時分も又弓と引て止るが如くよふん
と入ておろさざれば機織の志とる弦の如く通
系よいとと付或ハ岩行とよきて馬系から来るこ

故に弓と素引する心持小取扱べし投扱ハすべ
て系へとのをらぬよふとすべしとをるハ白
機類ハ多り歳ハ臍下へ力ともち撃て真直と
赤附べし手先と力と入てお付る忍し又歳と
糸とておハ志とらす歳ととやくれバりとお
出するり足ハ歳と一同とおろすべしおろしハ
足と揚るるり踏竹と踏たる足と揚れば後取
下るるり惣て花樓とて通系と引歳とお付と投
ると踏竹と踏と足とおろすよほど拍子よく速
續して序破急の拍子自然と備れり其拍子と不
知ハ織物と光澤と又堅系時と切或村と織り
出す鍛錬ハ此よあり織る人ハ父ふし花樓の
人ハ母あり機織の堅系横系ハ子あり父あり

惠く母ふれと育い子弟各父母の自愛より依て一
の花織成就に抒發通系し類ハ皆臣下よりして君
不幸て其利せざる者あり名譽の織人織せ織れ
と其拍子と感して黄鳥轉くわんと云天地と男の物
事と物と其感應なきよりまゝとてや衣食へ人
身一日も嘗てかゝる物あり

箴之目よりの傳

一箴ハ云とよと云ハ大概諸國四十枚あり又五
十枚と云起るもあり糸ハ堅糸八十筋とて
よと云るを一目へ二本入るまれば是セ二丈五
尺とて惣尺二百丈あり此目方生糸とて一丈二
分積り最も右の糸ハ二本合せよる故一丈二
分ありてハ四百丈あり依之百丈と目方三分づ

右の糸ハ繭繭七ツ附とて取たる糸と糸と積なり
又云け絹の箴ハ二十二よと是糸數繭七ツ附の
糸とて千七百六十筋一疋の堅糸あり繭尺長六
丈此惣尺万五百六十丈あり此糸目方三十一
六分八厘あり

箴目へ堅糸と入る傳

一糸立と云ハ地糸一重片糸一重若又其間ハ花紋
めれば別ハ織り堅糸の外よりから糸と一重入
て云を藤へ巻あり
一糸糸と云ハ箴一目へ糸一本つ入ると云あり
一ツ入と云ハ箴一目へ二本つ入ると云あり四ツ入
と云ハ箴一目へ四本つ入る綾ハ二本つ綾五二枚へ
入る平綾又成あり是ハ光光僧素細素細と同ト惣て地合

厚く平織るふハ如比する幸あり又四ツ入ふ
して綾取四枚へ糸一本ツ通し一歳の目の内小
綾四ツづ組ハ小篋綾と云あり一歳と目へ三本
ヅ入るハ三えん一と云あり一歳一目へ五本ヅ入るハ
綸子地あり諸糸綾と云ハ一歳一目へ二本ツ入る
と云

一歳目之柄

一歳尺一寸小付八十枚是ハ大概普通の上機織
と定む此歳目てハ一寸二よとあるあり板ハ
一尺幅の歳ハ二十よと成あり一歳幅と指幅ハ
織張りいハ大凡一尺三付五六分ツ張りまれば
一尺之指幅織る時ハ一歳一尺五六分小織つ
まり指一尺二成るあり指より幅のつまり多

少ありむ五六分の張りハ何指ふても通例のつまり
と知るべし横の太き指ハ幅つまり少し横の細
きハ幅の張り多し一登も太きハ張り少し登の細ハ
つまり多と知るべきあり

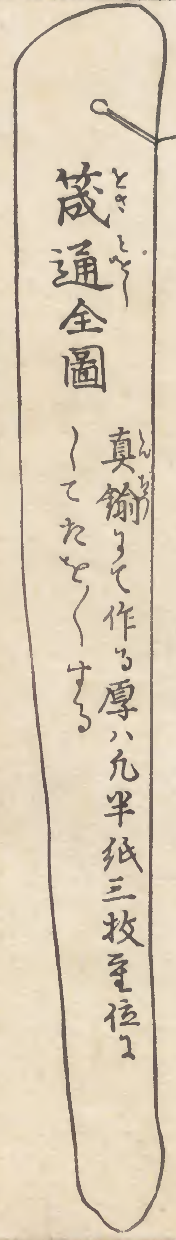
一歳柄

一歳柄ハ一歳尺ふて一尺三寸の歳入る様よ仕立へ
し是ハ八寸幅の歳と入て用る時ハ両方之明の
処へ落板を入るあり一歳柄の目方ハ大概四百目
前後よりよし是錦又糸錦の類の歳柄あり綸
子えん赤け指紅地の縮杯織る歳柄も七十目又三百
目縷紗の歳柄ハ九百目位とむさや杯ハ二百目
前後ふてよし袴地などの地厚と織るハ五六百
目位ハ歳柄あり小倉織歳柄ハ七八百目より一

貫目位又縹紗々箴柄ハ鯨尺二尺三寸位多クハ
 丈ハ九箴柄五百目位之丈九箴柄の目方ハ同物
 小てハ幅の狭き物と織る時ハ目方軽く又幅廣
 き物ハ目方をくするあり一躰地厚の物ハ目方
 きく地薄の物ハ軽く仕立るあり業の功者されハ
 将手自然と終程ニ織合出来る半あり大概七八
 十目より一貫目位迄あるものあり但し至し終く
 締る織物ハ箴ニツ步又ハ三ツも亦あり常ハ一ツ步
 半あり又そつとよせる如く至心より織るあり
 是ハ一足小付目方五六十目位の落絹あり
 一箴の高下ハ杼摺へ附加減するべし箴釣ハ亦附
 て真並ある加減たるべし
 一箴ハ堅糸と通しハ左右二尺二寸の篠竹と

間一尺五六寸小下小臺と拵て立て以竹ハ箴と
 結ひ止て箴通しと堅糸と引通べしを箴通と箴
 の乃へつさ出し向して一人箴通の糸かけて堅
 糸と然る時我前へ箴通と引く教度も同く
 て通あり

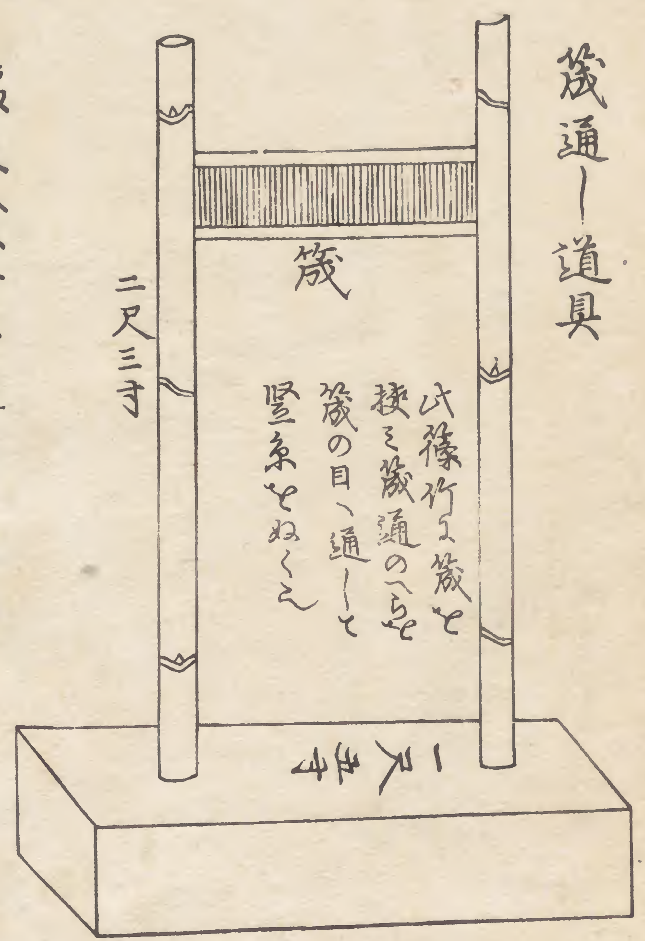
此紐糸と然て手布引ハ箴糸通あり



箴通全圖

真鍮より作る厚ハ九半紙三枚を位
 してたたくす

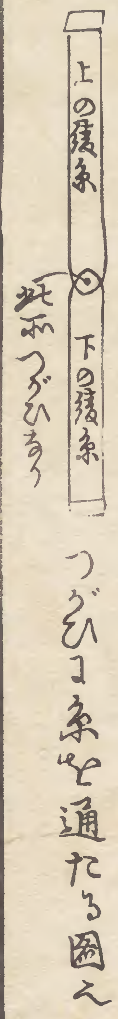
箴通一道具



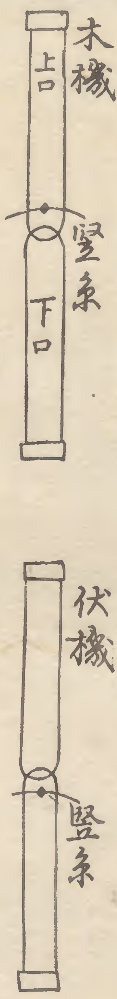
此條竹の箴と
 接し箴通のへらと
 箴の目を通し
 堅糸をぬく

綾取へ堅糸通方

一綾取二枚うて平指に織る但しはづひ口へ糸を通り



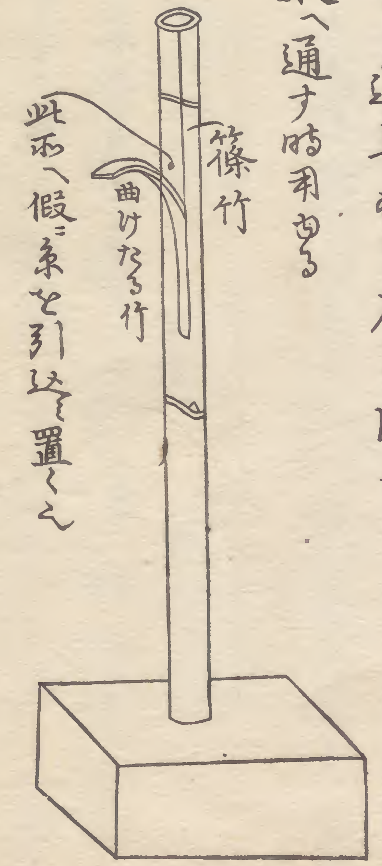
一ニ枚うて木機伏機と成る時ハ四枚と成る是ハ本機ハ上口へ糸を通し伏機ハ下口へ糸を通し本をうて上る堅糸の糸を伏機うて押ゆるさる



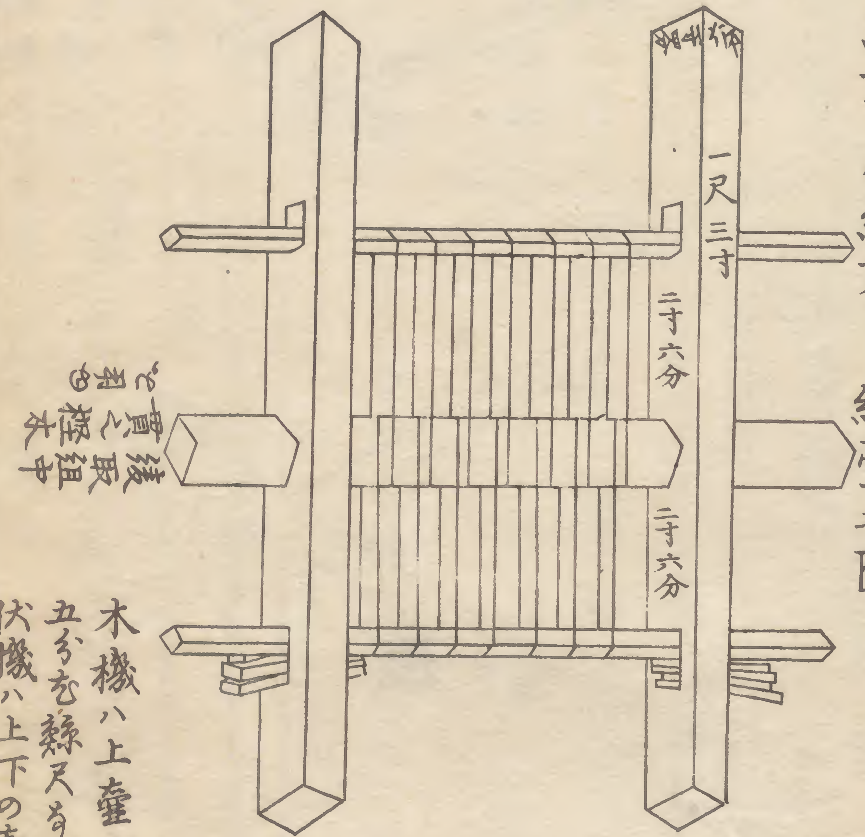
一綾取きうせよ木機一の上る時ハふぐせの二下る木機の二上る時ハ伏機の一下る之本づゝはろくろよをて踏上る形りふぐせハ弓に釣て踏下る形り但しふぐせハ堅糸より一寸五トきく弓へつり上げ置き踏きて下糸と平に成る積りはづひ口へ返す綾糸ハろくろよ熱糸き上下へ号分を踏み分るに於つづひ口の堅糸ハ箴より口のぬく半分丈上る又本づゝハ堅糸を箴へよく附よよ仕をるに此花紋を織る機の仕をあり

一綾にハ大概箴一と位より箴かき糸へさし入れハ糸切
 るより綾に多く明けハ締めくく出来る
 一かせきこをせ付るより踏竹へ糸附方よりかせきより
 綾糸へハ揃えて熟るかかせき方ハ穴へ通すより
 一踏竹の糸長さハ竹に附てよき加減に綾口を足て
 竹の踏さまへ届く加減より綾糸引通し藤へ
 巻き附る半道具あり尤も図す

綾取へ通す時利あり



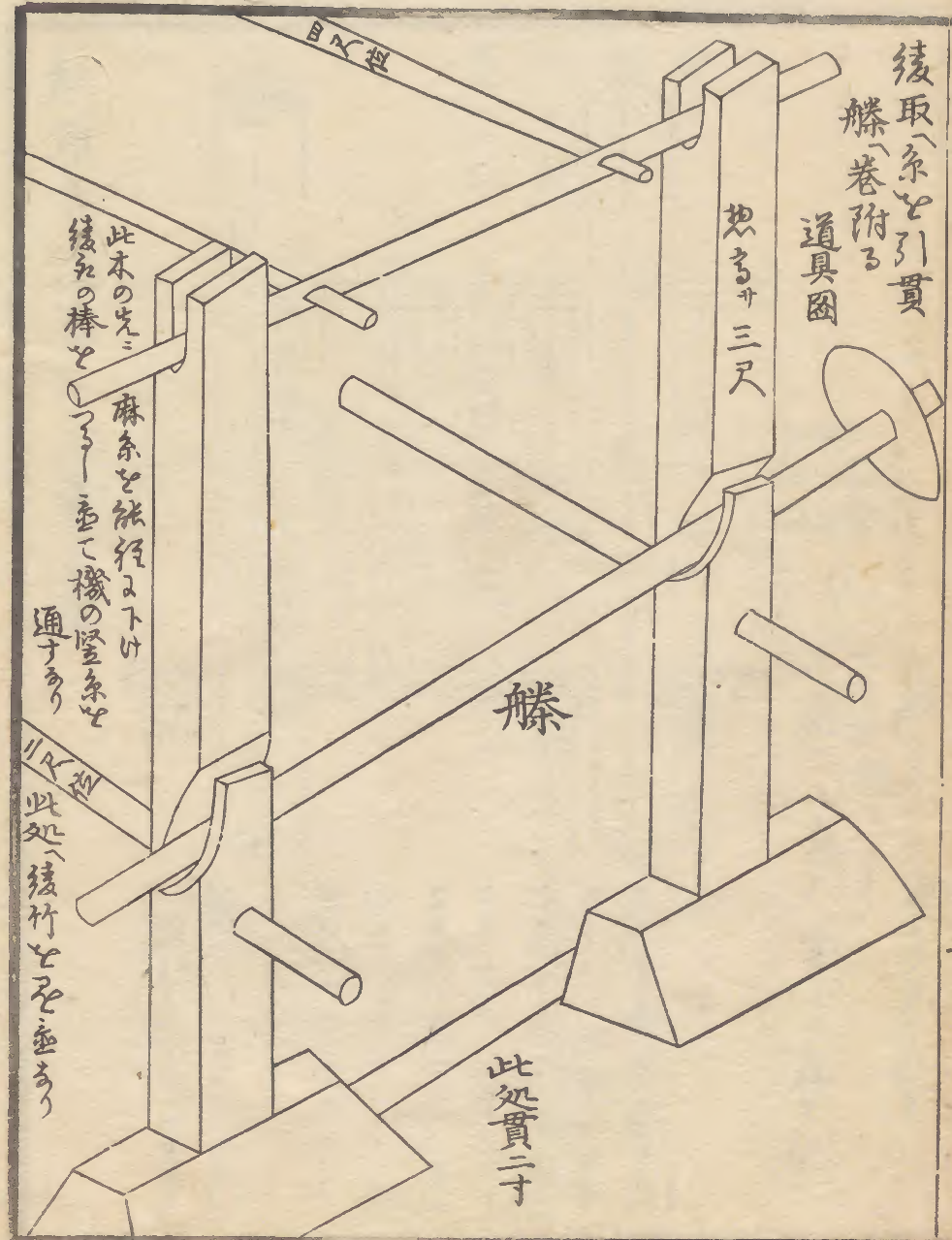
綾取糸組方并組臺之圖



如圖綾糸と中の貫と
 懸上下の角本の所へ
 糸と付紙とて張り
 其後此篋と取り
 糸を五本に分る根
 こそハ数と糸と初れ
 より中の貫の所で
 上糸下糸のこひ透ひ
 のつは成推しをる
 あり木機伏機也

木機ハ上壺下壺とて長さ八寸
 五分を懸尺あり
 伏機ハ上下の壺とて長さ八寸

綾取糸と引貫
藤巻附る
道具図



花紋仕懸口傳

一 紋通糸長と曲尺より一丈二尺折返て二筋よりして
仕をるが六尺とある

一 横經糸曲尺より二尺つ以外に壺糸ハ麻の疊糸より
曲尺より六寸つより切り揃ふ結ひて付之

一 馬糸線尺より二寸より一尺二寸五分但し一寸五分
より二尺五寸あり

一 岩糸線尺より六寸五分位一重より一尺三寸あり

一 いや竹線尺より一尺一寸但し目方四例のものハ一本の
目方二寸五分より三寸迄又六例八例杯ハ一本のを目
二寸よりより又一例よりハ一寸八五分寸位より削り
立て穴をゆるぎ是より岩糸を附る

一 岩竹より糸を付ると岩糸と云其壺へ引通す糸を馬

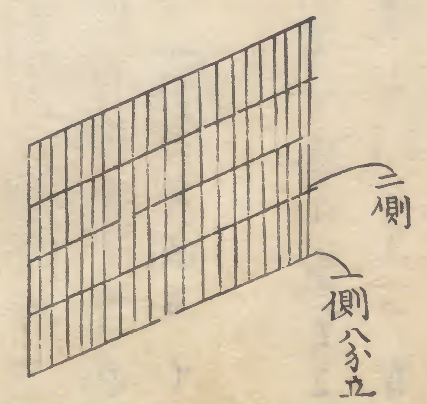
糸と云此馬糸へ登糸を一目ワ引貫き上の首へつさ
ぶ付る之右馬のを方九の如く此首の上小筋
と云壺あり九二寸程の壺之此糸へ通糸と附る花様
の鳥居の下の紋軸へ結附此通糸へ紋形と移し是
で引時よきさうひさうひ横貫糸と横経糸と云
さうさ竹と云よ壺と付結ふり此にて花紋顯れ出
るなり

一通糸ハ百二十或ハ百三十位迄百七八十乃至三百
位あり通糸數増せハ花紋大きくなり減すれハ細く
成る又八十位の通糸もあり又屏風形をれハ通
糸數少くしてよ雨降足よかまだ竹と仕をる
時ハ通糸數と多くをる

屏風形を方



雨降足を方



馬拭より下り糸の二おの上へ登糸を引通るり
一目ハ四ッ入られハ糸筋からともよ五本あるなり
因から糸一筋と除き残る上糸下糸四本と一
同よ二おの上へ引通也此二おの敷ハ幾よと敷程
有るあり但後三十よみめられバ二おの敷千二百あるこ

箴四十目せ一よと云也

一馬掛のよまのぬあり是よ一と云也
かよと云大方六かよ位より六々發紋から多れ七
例又ハ八例も分つあり上の花接よて通糸と引
けハ馬掛上る也花紋と段くよぬを此通一糸と引
上れハ箴元の糸上へ上り横の糸下とくり槽様とな
る但一横糸斗花紋と成り表へ出堅糸ハ裏へ廻る
於此時よからこの糸表と残り花紋の横糸とかけむ
を充織物の裏く方上よ成り表く方下よ成りて
織ると知るべし

一横経糸ハ一糸百二十本めんの其名を横と云をよ
も分ちよすあり引時の横経糸と境よ引あり一本
二本よりつ横経へもあり又十本二十本も分けたる

横経糸もめり横経糸ハ引次第よ下へ引よぬす其時
あ方の藤のよまのぬ下へぬるあり

一級通糸二まよと花紋よ因て横経多き時の又よ一
二を増一をよと

一級通糸一枚よ横経糸敷地の一をよ積りて百五十
本位まで夫より多き時の級を付る時よぶる付よ
一糸と増よて横経糸此二枚よ巧むあり是地のの
横一杼宛と横経糸百五十の積りよと三色よれハ横
経糸四百五十筋入る形よ大概此敷よかきりとするよ
一馬糸ハ帯よ堅糸より五分程つうひ下りて釣り仕
立るあり四例よ時外の側ハ馬糸つり上る形よ首
糸よ長短ありて馬糸と揃るあり

一いや竹八百八十本いや糸八百八十筋馬糸八百

八十筋首系長方四百四十筋同經方四百四十筋
珍次二百二十通系二百二十に折返して四百
四十横經系ハ花紋次第あり右ハ花紋又用ひる
系の教あり布文と見合せ知るべし

一 首系長短の分量ハ先經首より中二海り馬系と
つり其後長首の尺ハ一二巾試みて後ハ尺を定
むべし此兩ハ考あるべし

一 花紋ハ初ハ紙ハ可織模極と繪うきたとへも三
十よりの歳多れハ西系百二十巾と定三十よりの
歳數を内ハ割付何付ハ幾巾とする厚き紙ハ公
筋と引丈ハ繪グきたる模極を写し系のをり不
然と見て拾ふあり

一 花紋拾方ハ一寸ハ横系百巾入る積みして歳七十

枚多れば一寸ハ付堅三十ハ横五十の罫と引てト
繪を合せて星と附へし是ハ罫一ツの中ハ星四
付故ハ如は是正と云と云あり若し罫細くと星
つけがきハ下繪を大くして織り残りの別と考る
と増繪う法と云は是ハ何程もても割合を以て大
と小と取るあり横系三色五色も織時ハ地系一柄
と繪貫ハ幾柄も通るといふて紋と仕立べし是を
附る時ハ色よく付かると拾ふよと一但し皆葉
き、附垂水繪具よく條方とよと可知也

一 紋形拾う傳系ハ二尺半の臺へ歳半も右ハ白罫
と合せ引張り垂白罫の筋次見合て横ハ系と通
以之此系ハ則横經系ハ張垂たる系ハ則通し
系ハ成る如此ハあると幾等も合するあり紺巻

形と合すと同道理あり是拾方の口幅ありを横糸の割合又紋の合せ方皆糸く口幅あるべし

一紋拾の紋取の通し糸長さ曲尺三又二百二十筋横径ハ一尺宛あり

一井筒く中へそる篠竹ハ十二本又六本ハ十二本の上下よりあるむ十二本と六本の篠の各一寸四五分六本の篠ハ一側二側と云を方ハ前記

す如く兩路足と屏風の二品あり皆其花紋は依て是を定るべし

絹布名号

一錦ハ又唐錦とも云平金糸ハ五色の糸を入る上品はく色数多く入る地合ハかき地あり

一金襴ハ縹子泥く平金をうり至て細あるを織るあり

一金の位より上中下あり

一縹錦ハ堅地く色糸を織りからく裏ハ縹糸一面よりあり

一綺ハ俗に糸錦と云平綾く金糸を織不入り色糸をうりて織と云此織方く花紋の細うきと

莫臥爾縹と云

一唐織ハ一名く錦と云糸ハ種々の色を織込むる之系多く地からく下地ハ一柄ハ幾柄も色数多し

幅いつまよ柄と通し裏ハ皆飛糸ハ成処くこの如く厚く見ゆ依之名付るは地合ハ縹子地又か

地或ハぬり地ハ縹の横の色糸ハねりぐり糸ハ本縹錦ハ地合平綾く二重縹横ハ何色も本

縹系縹糸ハ縹糸の如く織る

枕織

一 襖美錦ハ極細き捻金糸より金銀二色織り彩色色をつくして種く色敷と織る地合ハ縹子ふて模様の出ハ表より縹紅と織から糸より地堅糸ふて表よりから裏ハ飛糸より上品ハ地一杆く内と捻金二杆宛織るあり

一 厚板ハ地合平綾席拍ふして糸錦の如く引絞めて織る又堅地も織るを二重堅から糸わり

一 衾錦ハ堅横の糸共と捻糸ふて五色又色とつして織る地合ハ席地あり故に堅糸ハ不見して横糸ハ縹取し其模様を織るあり舟の帆木綿の地も衾地あり

一 縹子ハ縹子地より深糸より織るをから糸をく地よりあり二重縹子ハ常の縹子の紋の廻りと又糸

杆と一挺通し外色と織也故に二重の名あり尤同に八杆と二挺通すあり

一 縹子ハ縹子地よりから糸なく紋とハ地堅よりかくむあり

一 八糸縹ハ縹子の紋と不引して織と云

一 縹珍ハ縹子地より伏機き紋と引取り紋の上上飛糸あり但し二丁杆四丁杆ある時は紋外と雨と織る時は先と引とる紋の雨より横糸あり

一 光絹素袖 諸繒 縹紗 四岳 皆平綾あり
又加伊岐古波久波加多 抑條 縹袖 袖ハ丈夫絹
絹布 葛布 芭蕉布 木綿布 小倉木綿 眞抑條
類皆平綾あり

一紗精好生絹羅此類皆平綾織る

一魚子ハ地合の名あり平綾の踏をよて織る

一羅紗ハ平綾よて毛糸と織る

一天鵲織ハ縞子地よて別よ毛糸と織る金花山

織ハ捻金糸よ色糸と交て織り毛と不切あり

右ノ外織物の名目新古数多一皆同物にて少の模様の遠ひ等よて名目と付或ハ新渡の唐物せゆて考出の類若干あり妻書記するよいとまわらぬ故畧之

織物地合ノ名号

一堅地と云ハ本機六枚伏機六枚と綾取よて踏竹

ハ六本之一二二五三六と両足踏あり

一ぬり地と云ハ本機ふぐせ八枚宛踏竹八本之一二七

二五八三六と片足踏あり

一小柳地と云ハ本機ふぐせ六枚踏竹六本あり踏

方ハ一二二五三六と片足よて踏あり

一綾杉地とハ本機ふぐせ四枚宛よて踏竹四本一二三

四二二一と踏あり

一魚子地といきむとふぐせに枚宛よて踏竹四本一二三

四と両足よて踏あり

一細代地といハ本機伏機に枚宛よて一二二三三三三三

踏竹に本を両足よて踏あり

一小菱地ハ本機ふぐせ六枚宛踏竹六本よて一二二六

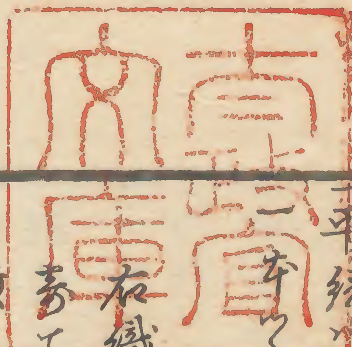
三五一二三五二六一二と両足よて踏あり

一縞子地ハ本機ふぐせ五枚宛踏竹五本よて一三五

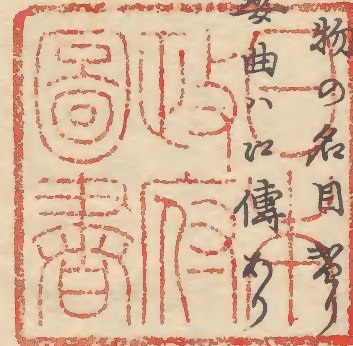
二二と片足よて踏あり

機織彙編卷之三

平綾ハ木機ふぐせ二枚宛ヨク踏竹二本ト片足ヨク
一本ト踏ヨリ



右織物ハ地合ハ九品の外ヨリヨク其品ヨ
キテ地合ハ九品の中セヨク織テ花紋ト引テ
横糸ヨク彩色スル花紋の仕方或ハ花紋の大小
又ハ金糸の入不入或ハ平金糸捻金糸のち細
ヨク等ヨク織物の名目ヨク
ヨクの品ヨク委曲ハ伝ヨリ



機織彙編卷之三終

